



令和2年度

横浜市立生麦小学校

学校だより

横浜市鶴見区生麦4-15-1 学校長 沼田 留美子
<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/namamugi/>



7月(文月)

まな

コロナウイルスから学んだこと

沼田 留美子
校長 沼田 留美子

分散登校から、午前授業を経て、7月からはよいよ給食も始まり、ようやく通常授業に戻ります。予測のつかない未来で生き抜くために、学んだことを生かして、自分たちなりに解決していく力が求められている今、今回の対応から学んだことが二つあります。

一つは、情報を正確に見極めることです。インターネットやSNSなどで得られる情報は非常に多岐にわたり、その中でも自分の考えに近いものや、都合のよい情報だけを信じがちになっていました。「正しく恐れる」という言葉がありますが、誰がどのように発信しているか、それは本当のことなのかどうか、感情や個人的な考えではなく、正しい証拠をもとに言われていることなのか見極める力をもつことが大事だと気づかされました。

もう一つは、「みんなつながっている」ということです。海外の狭い範囲で感染がみられていたことが、今や全世界に広がっています。日本でも、あっという間に感染者が急増したことから、世界と日本はつながっているということが分かります。人とのつながりがもとで感染拡大したところもありました。会話も制限され、2m以内は近寄らないなど「社会的距離」は物理的にも心理的にも人との距離を作らざるを得ませんでした。人間は生まれながらに誰かと一緒にいることや、支え合うことが欠かせません。感染防止対策は、命を守るために必要なことです。同時に、人と人、国と国など、様々なつながりがいかに重要か再認識させてくれました。

完全収束するにはまだ時間がかかりそうです。日常の学校生活を取り戻すために教職員が一丸となって消毒作業を行い、子どもの学びを保障するためにカリキュラムを見直し、指導の工夫や改善をしています。学校の行事につきましても、新しい生活様式をもとに、内容を見直し、充実を図ってまいります。

例年6月に生麦地区で開催される横浜市無形民俗文化財「蛇も蚊も」は「疫病退散を祈願して廻り、そのためか、疫病もおさまった」と伝承されているそうです。今年は残念ながら中止になりましたが、コロナ退散を昇降口の「蛇」に願います。保護者、地域の皆様、共に力を合わせて子どもたちの明るい未来のために一緒に歩んでいきましょう。